

おれんじニュース

No272

2012年11月号



10月8日 夜峰山から見たこれから登ろうとする御竜門山 予想外に厳しい山だった

★ 会員一人一人が運営委員です。みんなでオレンジHCの運営に参加しましょう。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	11月	12月	時 間	場 所
運営委員会	7日(水)	12日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
ひまわり集会	2日(金)	7日(金)山行時	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	21日(水)	26日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館





夜峰山の下りでは地図とコンパスの勉強



定員オーバー気味の御竜門山山頂登ってしまえば皆笑顔



11月の山行計画



部	技術研修部	自然保護部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	4(日)	6(火)	10(土)~11(日)	16(金)	24(土)(北山キャンプ場) 25(日)(千如寺・雷山)
山名 (行事)	大野岳	矢上普賢山	久住・中岳・大船 法華院温泉泊	琴平岳(334m) 鳥甲(769m)	北山キャンプ場テント泊 翌日雷山(955.4m)登山
地図	神浦	長崎東北部	大船・久住	多良岳	背振山・雷山
集合時間	西諫早駅 8:00	県営バス駅前 8:23	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	西諫早駅 9:00
難易度	初級	初級	縦走・ゆっくりの 2コースあり	初級	1日目はキャンプ場で セルフレスキュー 翌日雷山千如寺
帰着時間	17:00	14:06 矢上発	17:00	17:00	11/25・17:00頃
歩行時間	2h	3h	3~5h	3h	3h
交通手段	マイカー	公共交通機関	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	法華院山荘 (数名寝袋要)	日帰り	背振キャンプ場/寝袋持参 (オレゾに貸出あり)
温泉	無し		入浴あり		やまびこの湯
参加費	2500円	交通費実費	15000	2000円	6000円
申込期限	随時	随時	定員になり次第	随時	定員になり次第
集約	佐原	中村	田中	林	佐原
備考	クリタンの歴史道	身近な山を登ります。	紅葉観賞登山 法華院山荘では チェロ演奏会有	琴平の後、南河内に移動して登る	千如寺の大楓・雷神社の大イチョウを見学
感想文提出	11/14	11/16	11/21	11/26	12/5

9月予定の
再チャレン
ジです



キャンプ場の
変更です。
他はいつしよ

外海の大野教会
素朴な石組の作り

12月の山行計画



部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部	自然保護部
月・日	12/1(土)~12/2(日)	12/7(金)	12/16(日)	12/19(水)
山名 (行事)	霧島山系白鳥山 甑岳・韓国岳	小浜~唐比	秋吉台 龍護山・若竹山	諫早小野金比羅岳
地 図	高千穂峰・霧島温泉・ 韓国岳・日向小林	愛野・肥前小浜	秋吉台	諫早南部
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅発 島鉄バス 8:20 口ノ津行き	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅 8:38 発 島原鉄道
難易度	ゆっくり班あり	初級	初級	初級
帰着時間	19:00 頃	17:00 頃	20 時	16:00
歩行時間	4h/5h	4h	4h	3.5h
交通手段	マイクロバス	島鉄バス	マイクロバス	島原鉄道
宿泊施設	国民宿舎みやま荘	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	あり	唐比温泉	あり	無し
参加費	15000 円	交通費のみ	5000 円	交通費のみ
申込期限	定員になり次第	各自	定員になり次第	各自
集 約	佐原	林	田中	中村
備 考	忘年会兼山行です。	秋の海岸を歩きます。	さわやかな草原歩 きです。	景観のすばらしさ は諫早屈指
感想文提出	12/12	12/17	12/26	12/29

第12回 登山フェスタ in 雲仙

期 日 10月27日(土)~28日(日)

場 所 有明町「舞岳山荘」(☎0957-68-1111)

27日 西諫早駅 1:00 出発
 フェスタ受付&オリエンテーション 2:00~2:40
 開会式 3:00
 (各自、自分の食器、翌日の昼食、行動食程度を持参して来てください)

28日 交流登山
 A班、雲仙新登山道(健脚)コース
 B班、田代原自然観察コース
 C班、九千部岳登山コース
 D班、舞岳登山コース(8888段)
 E班、牛首岩登りコース(雨天時セルフレスキュー)



あたらしい仲間 ☆ 松岡 正樹さん

10月8日からの入会です。よろしくおねがいします。

2012年9月/10月の山行報告



9月22日(土)～23日(日)

九州ブロック広域搜索救助訓練

(参加者) 川原、坂口、山下、国分 下釜 松園 計6名 (長崎県連: 23名参加)

(行程) 9/22 諫早発 9:00～10:30 黒髪少年自然の家
9/23 黒髪少年自然の家 14:00～15:30 諫早着

(感想) 受付は13時からになっていたが、11時から関係者の打ち合わせがあるということで、諫早組は坂口さんの車で9時出発、少年自然の家に着いた時には国分さんも既に到着していた。関係者が誰々なのかわからないまま午後の講習会の打ち合わせに入ると、明日の訓練コースのCL、SL、ADも入っての話し合いだということが分る。揃わないメンバーもいたが、一応各グループのCL、SL、ADを中心にテキストに沿って講習を進め、講師



の川原さんと、柿木さんは各グループを回って指導する形になる。耳にはしていたが、佐賀県と九プロ事務局の対応がかなり大雑把であることが実感できた。昼食を済ませ、午後から開会式が始まった。黒髪山を守る会の吉島幹夫氏が来賓挨拶をされたが、“黒髪酒呑童子”という小説家でもある由、川原さんはこの方からお酒の1升ビンをもらい、下釜さんが最後まで酒番をしていた。

講習会は翌日の搜索訓練の班毎に分かれ、自己紹介から始まって、ロープワーク、背負い搬送、担架搬送、雨具搬送と進み、最後はカウンターラッペルまで実技講習が行われた。各班ともCL、SL、ADを中心に進んでいたが、参加者のレベルにかなり差のあることが分かった。講師中心のやり方ではなく、各班の主体性に任せるやり方を

採ったので、時間のロスは少なかったように思う。

17時から夕食と入浴タイム、19時からは第2弾のテーピング講習が入っているので、ゆっくりお酒を飲んでるわけにはいかない。労山の仲間でもある整形外科医の北島医師による、足首の捻挫を想定したテーピングを見た後、実際二人一組で実習に入った。私は下釜さんと国分さんの3人で実施したが、テープを剥ぐ時わざと引っ張って剥ぐので参った。皮膚に沿わせてゆっくり剥ぐのが痛みは少なくて済む。

キネシオテープと違って、実際捻挫を起こした時の処置なので参考になった。

20時30分から交流会がスタート、県連別に席は分かれていたが、飲むほどに酔うほどに旧交を温めあう場面が見られた。長崎県連は全員で「多良岳賛歌」を歌った。

最後は全員で肩を組み合って大きな輪を作り、「坊がつる賛歌」を歌って散会した。

宿泊棟の部屋で、酔いの残った山下女史がオレンジの替え歌を歌ったら、同室の西都山岳会の中村さんに大受けで、歌詞カードを所望される一幕もあった。

二日目、7時朝食、8時30分いよいよ捜索救助訓練開始、各班に分かれてスタートした。

私が所属した1班（黒岳コース）は参加者16名、登山口スタート9時15分、ダミー発見9時50分、1名は手首骨折と足の捻挫、もう1名は足の骨折という想定で応急処置を施し10時搬送開始、登山口到着は11時であった。

黒岳の山頂直下は急斜面のズルズル道で、最初はザックによる背負い搬送、山の中腹からは雨具による担架搬送で下った。全行程を交代で搬送できたので、チームワークが素晴らしかった。午後、各班からの報告があったが、どこの班も似たようなコースタイムで訓練が出来ていたようであった。

報告会では、前日の講習が実地訓練で生かせたという声や、手も足も出ない高度な技術ではなく、これからの山行に生かせる身近な救助方法だったという声が多く聞かれた。

オレンジメンバーは各班で活躍し、リーダー達から感謝されていた。

セルフレスキューをあまり実施していない県や会には、良い刺激になったのではないかとと思う。参加した会員にとっては川原さんの薫陶を生かせる機会にもなった。

(記録 松園)

10月8日(月、祝)

夜峰山・御竈門山

(参加者) 川原、中須賀、中里、兵庫、佐原、中村、松園、田中(静)、高森、下釜、山下、星子、松岡 (13名)

(行程) 6:20 諫早駅^ハ列車～6:40 西諫早駅—長崎自動車道—金立—熊本 IC9:05—垂玉温泉 9:55—登山口発 10:20—夜峰山山頂 11:20—池の窪園地—南阿蘇登山道出合 12:15(昼食)同発 12:30—登山口探す—バスを呼ぶ—御竈門山登山口着 14:20(火の山トンネル口)登山開始—北ピーク 14:50—御竈門山山頂 15:05—下山—下山完了 16:00—久木野温泉 16:30—同発 17:05—諫早着 20:25

(感想) 数年前、公民館講座「四季の登山」に参加しました。

最近 テレビで山の紹介がされています。私も登れるだろうか？

まず、体力をと思い公民館に相談、「オレンジハイキング」を紹介していただきました。

会は長い歴史と経験豊かな皆様で組織され、平均年齢も高く和気あいあいとしていました。大丈夫と思い入会を決めました。

10月8日、夜峰山、御竈門山の山行に参加しました。

夜峰山は初心者の私には最高でした。心地良い秋風と野の草花に心癒されながら歩きました。又、地図や磁石の見方も教えていただきました。

御竈門山は巾が10センチ程と思える尾根歩きです。足がガクガク這うようにしてまわりの草や木を握って登りました。山の土がとても軟らかでした。私など登る事の出来ない山に「ザックを空にして」という先輩方の知恵のもと無事登り下山することができました。

ありがとうございました。

目的とする山に登れる日を夢みつつ体力をつけて頑張ります。よろしく願います。

(星子 記)



10月19日(金)

雲仙登山新ルート

(参加者) 中里、小山、川原、兵庫、佐藤、星子、下釜、林田、金丸(直)、山下、山口、森(寿)、林、森川(外) (14名)

(行程) 諫早駅 8:20 西諫早駅 8:30—仁田峠 9:40—薊谷 10:10(装備の紹介、地図の説明、ストレッチ) 新ルート展望所 12:30(ランチ) 同発 1:07—普賢岳 1:37—下山—池の原園地駐車場 3:40(セルフレスキュー) 帰宅—西諫早着 5:20

(感想) 秋空の下気持ち良い山歩きが出来た。今日は登山教室も兼ねてる登山なので装備も気合いが入る。配色はどうだろう？暑さ寒さは？・・・。この季節いつも暑いかな寒いかなと言うのが問題である。ダウンを持っては行くが雨具で防寒着の役割をしよう。

さて、今日は小山さんと中里さんが車を出して下さってる。往時は小山さんのキャンピングカーに乗せてもらった。ワゴン車をキャンピングカーに改造してあってなかなか快適である。ルートは別所ダムを通るルート。ここは雲仙への最短ルート。信号もほとんどなくてスムーズに仁田峠に到着。さすがに寒いので薊谷まで行ってストレッチすることに。

薊谷に着いたら今日は新顔が多いということで、まず装備の説明そして兵庫さんが地図の説明を簡単にしてくれる。

薊谷からは班体制を組んで山下がトップ川原さんがラストをみてくれた。私は少しでも秋の花が咲いてれば説明しようと思ったがさすがに10月の半ばで余り花は見れなかった。「ミカエリソウ」「ヤマアジサイ」「アキノキリンソウ」「ダイモンジソウ」などの咲いた後がかすかに残っていて説明をした。「雲仙マユミ」がきれいなピンクの実を付けていた。

比較的ゆっくり歩いたせいか高岩の峰に着いたらお昼を過ぎていた。あまり風が無かったのでここで昼食を取ることにした。30分の昼食の後兵庫さんの地図のレクチャーが再開し熱心に耳をかたむけていた。以前この新ルート歩いた時は気づかなかったが道のあちこちから湯気？が出ていてそこに手をかざすと温かい風が出ていて温泉とか地獄とかを身近に感じる事が出来た。ここから霧氷沢を経由して普賢岳頂上についたのは1時半くらいだった。ここも登山者が多く兵庫さんの知り合いのかたにカメラのシャッターを押してもらった。ここから眺める山肌はもはや紅葉まっさかり。カメラをあちこちにむけてシャッターを押しまくった。ゆっくり昔のルートを下山すると登って来る人が時々ある。ここから登ると新ルートへはいけませんよとついつい教えてしまう。この新ルートの説明は少し解りにくいので。しかし平成新山を間近に見れるこのルートは本当に季節を通して素晴らしいと思う。すっかり雲仙を堪能した後、いつもなら温泉に入るのだが、登山教室も兼ねた今日の登山は最後に池の原園地の駐車場でセルフレスキューを行った。まずボーライン結びから始めてムンターヒッチ、エイトノット等皆で教え合っ



て、斜面の上からムンターヒッチで下りる練習は皆楽しそうに行って今日の山行を終りとした。雲仙という近い場所だったけどなんか充実した満足した一日だった。新しく来られた森川さんも「楽しかった」と言って頂いた。快く車を出して運転してくださった小山さん、中里さん、ありがとうございました。(山下 記)



オレンジ仲間の裏の顔

①パソコン教室の顔

オレンジパソコン教室

オレンジハイキングクラブ



オレンジハイキングクラブの会員より、パソコンを覚えたいとの要望が出たのは今年 3 月であった。思い立ったが吉日で 4 月より受講者 3 名で始めた。とりあえず文章を打てるまでと言う事で毎週 2 時間、3 カ月で終了する事を目標にした。

しかし見通しは甘かった。機材設定の不揃い、絶え間ない学習記憶の欠落などなどで遅々として進まず、でも何故か面白いと言って意欲だけは衰えず、結局テキストを行ったり来たりしながら 9 月まで延長した。また希望者も増えてきた。

それならばと、1 年計画でフレンドリーにゆっくりと、しかし肝心なところはみっちりと学んでいこうと 10 月より月 2 回ペースで最初から再スタートした。

正式な受講登録者は 6 名で 2 回実施したところである。きっと 1 年後には実用上問題なくパソコンを操作できる人が 6 名は誕生し、パソコンで会議資料の作成も「おれんじニュース」の編集も出来る人が有り余るほどになる………と言う夢を描きつつ皆で頑張っている。

受講者はそんな積りじゃないと言いたいだろうけど。

(鎗水 記、題字・写真も)



編集部ではオレンジ会員の裏の顔を募集しています。登山以外の色んな顔、特技、趣味自薦他薦なんでも結構です。取材にまいります。



論者有記

スポーツ部 近藤 幸夫 こんどう ゆきお



増える登山者 遭難防ぐ契機に「山の日」を

10月上旬、日本山岳協会や日本山岳会など山岳5団体、さらに山小屋主や環境省担当者らが都内で集まり、国民の祝日としての「山の日」制定をめぐって話し合った。東大スキー山岳部OBで自民党の谷垣禎一前総裁ら政治家も参加した。親子登山や森林資源としての山など様々な分野から報告があり、全国的な組織に発展させることを確認した。

「山の日」提唱者の1人で作曲家の船村徹さん(80)が特別講演に立ち、「私は海のヒット曲が多く、『海の日』制定の際には協力を惜しまなかった。驚いたのは、漁師たちが『山の日』制定に一番熱心なのです」と話した。豊かな森の水源からミネラルなど栄養素に満ちた清流が海に注ぎ、良質の漁場をつくる。「水源の山を守ろう」。植林活動に励む漁業協同組合も存

在する。「海の日」があるのに、なぜ「山の日」がないのだろう。報告者の多くが疑問を投げかけた。

「山の日」構想が本格的に動き始めたのは、国連が定めた「国際山岳年」の2002年だった。その後、各地で山に関する記念日を制定するケースが増え、現在、広島県や山梨県、大阪府など13府県で「山の日」がある。

こうした動きを踏まえ、10年に山岳5団体が「山の日制定協議会」を設立した。これまで、携帯版パンフレット「山を考える」を4種類、各10万枚作った。遭難防止や健康づくりなど山に関するテーマを紹介し、全国に配った。

最近では「山ガール」ら若い登山者やファミリー登山者が増えている。その一方で遭難が多発し、今年7、8月に全

国で起きた山岳遭難事故は552件、遭難者676人。警察庁が統計を取り始めた1968年以降、最悪だった。登山は山やルート次第で、子供から老人まで誰もが楽しめるスポーツだ。だが、天気や地形を見誤れば、死に直結する危険をはらむ。09年夏、北海道・大雪山系トムラウシ山でツアー登山客ら8人が低体温症で遭難死した。「山の日」は、遭難防止を考える大きなきっかけになると思う。

祝日制定には法改正が必要でハードルは高い。協議会は6月第1日曜を「山の日」に希望する。新緑の季節で祝日のない月、が理由だ。

国土の約7割を山林が占める日本は、世界有数の山岳国だ。安全で楽しい登山を普及させ、豊かな森を守るために、全国的な運動に広がってほしい。

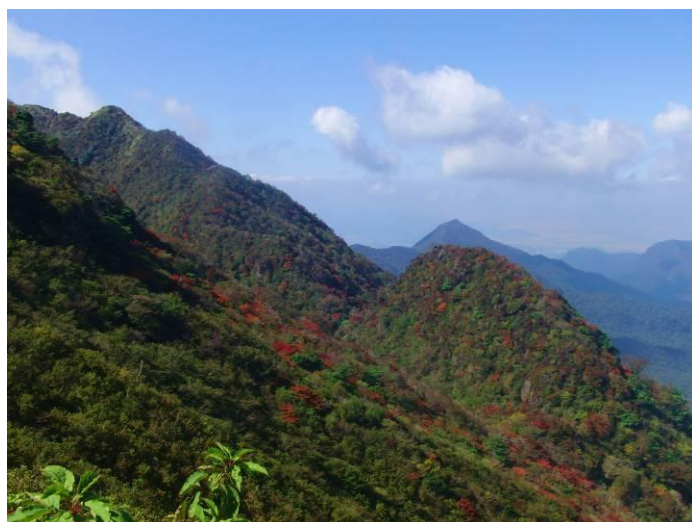
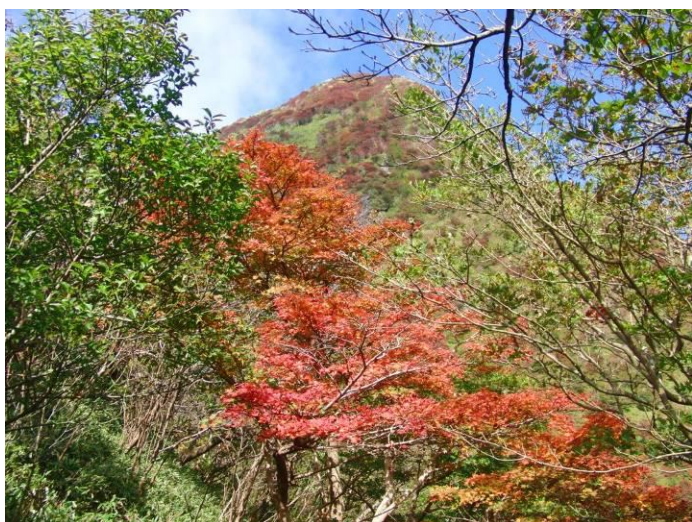
10月20日朝日新聞朝刊より



サマルカンドブルーの青空の下普賢岳に立つ



平成新山を背景に集合写真・あちこちから湯気？も出ていた



10月19日 普賢岳からの景色は一面あざやかな紅葉に変わった

おれんじニュースNo272	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2012. 10. 24
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/

雲仙新ルートで岩に根を張る
ヤマグルマ(写真提供・中里氏)



原稿の少ない月でした。皆さまの山行と活躍の報告、感想で成り立っている「おれんじニュース」です。
どうかよろしくご協力お願いします。写真も受け付けています。